

23年秋 共済推進全国交流集会

魅力を伝えて共済をひろげよう

140単組支部215人が参加 共済説明会の取り組みが大切



10月16日、日本医労連23年秋・共済推進全国交流集会を東京・都市センターホテルで開催しました。集会には全国から215人が参加。共済推進にむけた交流を行いました。

交流集会を開催するにあたり、主催者を代表して日本医労連の佐々木悦子中央執行委員長が挨拶を行い、「コロナ禍のもと奮闘してきた医療・介護労働者の賃金水準は低いままとなっています。保険会社の調査でも保険料が払えないことを理由に備えをしない青年層がいることや損害保険料の引上げが行われていることです。医労連共済で、組合員のもしを守ると同時に、可処分所得を増やすことに確信を持ち、共済推進の運動をすすめましょう」と呼びかけました。

全労連共済の平澤学専務理事の来賓挨拶の後、日本医労連の内田博之中央副執行委員長(共済事業局長)が基調報告を行いました。

共済説明会を開催しよう
基調報告では、コロナ給付金が1万7千件を超え、給付金額も10億円以上になったことを報告し、給付を届けるために奮闘してきた各組織の共済担当者に敬意を表明した後、34期の加入・給付状況を報告し、加入推進にむけた取り組みを提起しました。

増え続ける組織から学ぶ 4組織から特別報告



最初に、岡山生協労組の岩本千鶴さんが「コロナに負けるな共済拡大」として、コロナ以前・コロナ禍・そして現在の共済活動を振り返りました。「コロナを経て職場に足を運ぶことが億劫になっている。組織拡大も共済加入も対話なくして増えることはありません」と加入推進の決意を報告しました。



藤園知子さん

2番目に、尾張健友会労働組合の藤園知子さんが「共済拡大への取り組み報告」として、23年新歓を成功させた秘訣や、愛知民医労での情報共有、支援を受けて活動を進めていることなどを報告し、今

活動の見える化や組織拡大にもつながる共済説明会をすべての支部で開催しよう。新歓では共済プレゼンと共済アンケートの準備を行い、新人の共済加入を進めよう。組合員全員の助けあい制度で、個人共済の加入推進にもつながる組織一律加入をはじめよう。自動車共済の掛金見積りを広げて加入につなげていこう」と訴えました。



穴井輝明さん

3番目は、沖縄生協労組の穴井輝明さんが「自動車共済の取り組みについて」として、契約者からの口コミで加入が拡大している自動車共済について報告しました。



坂本諭さん

4番目は北海道医労連の坂本諭さんが「北海道医労連での共済推進の取り組み」として、北海道で取り組んでいる組織拡大共済推進会議や単組支部の特徴的な共済推進活動、退職者を個人加盟につなげる取り組みなどを報告し、引き続き共済推進に取り組む決意を述べました。

34期・表彰



交流集会では、個人共済・火災共済・自動車共済の年間拡大目標に対する1位〜3位組織について表彰を行いました。

- 【個人共済・年間拡大数】
 - ①岩手医大教職員組合
 - ②岡山生協労組
 - ③全医労豊橋支部
- 【個人共済・年間拡大率】
 - ①全日赤九州ブロック血液センター
 - ②ひろしまデンタルヘルスユニオン
 - ③国共病組札幌支部
- 【火災共済・年間拡大数】
 - ①愛知県医労連
 - ②岡山生協労組
 - ③名市大教職員組合
- 【自動車共済・年間拡大数】
 - ①沖縄生協労組
 - ②岡山生協労組
 - ③鹿児島生協労組
- 【個人共済・連続拡大】
 - ①北海道動医労
 - ②愛知県医労連
 - 【自動車共済・連続拡大】
 - ①沖縄生協労組

交流し学びあった分散会

今回の交流集会は、初心者実務研修などは行わず、実務などでの悩みや質問を出し合い、そのうえで共済説明会や新歓での取り組み交流を行いました。

分散会では、共済プレゼンで新歓を成功させ、共済プレゼン期間の掛金を数か月後に加入者に戻し喜ばれている事例や、新人にプレゼンをする時の加入実務の進め方など、それぞれが行っている、良いポイントを紹介し合うなど、積極的な議論が行われました。



脈路

先週、福島労働組合の企画で南相馬市のボランティア活動に参加してきた。12年前の東日本大震災後に、労組で毎年1回、取り組んでいるものだ。県外の他2名と一緒に前泊・後泊の2泊3日で、現地のボランティアセンターに集合し、住民からの要望を受けて、畑や土地に茂ってしまったセイトカアワダチソウなどをエンジン式の刈払機で刈り取る作業に取り組んだ。普段やらない作業かつ2サイクルエンジンの振動で、昼休憩に入っても手の痺れが取れない「振動病」状態。ぎこちなく箸を持ち弁当を食べる。午後からはいくらか慣れも出て、思ったよりはスムーズに刈り取りも出来たが、太く育った芋の蔓などに難儀しながら、20人程の仲間と予定されていた場所の草刈りを時間内に終えることが出来た。依頼者からはものすごく感謝され、ほどよい天候の中で、心地よい汗もかいたことに気分は高揚した。しかし福島第一原発事故がなかったならば、この福島県相模地域も、それなりの復興を果たしていたはず。人口減少傾向は避けられなかったとしても今ほどの状態ではなかったのだと思うと、「良いことをしたな」というだけでは収まらない。南相馬ボランティアセンターには「できる人が、できる時に、できる事を」というスローガンが掲げられている。「何をやるか」は、私たち一人ひとりに課せられた課題だ。



取り組み方針を確認

全労連介護・ヘルパーネット第19回総会

10月8日、全労連介護・ヘルパーネット第19回総会が開催され、全国から現地に54人、オンラインでは8人、合計62人が参加しました。

全労連会館にて開催された、全労連介護・ヘルパーネット第19回総会は、オンライン併用しつつも分散会を設けるなど、開催方法をコロナ禍以前に戻す形で開かれました。

議案では、介護労働者が安全に安心して働き続

けられるよう、国が考

えられるよう、労働組合の社会的影響力を高めることが必要であり、そのために介護労働者の組織化を前進させようと呼びかけられました。

議案では、介護労働者が安全に安心して働き続

善、③介護を良く

するアクション月間の取り組み、④介護ヘルパーネットの組織強化・拡大が、次期世話人及び事務局体制とともに提案されました。

議案提案後は、ケアマネ、施設介護、在宅介護、病院介護の分散会に分かれて討論を行いました。各会場では、①私の職場、ここを変えたい、②「仲間増やし」チャレンジしたこと・したいこと、をテーマに活発な意見交換が行われました。

介護報酬改定の動きとねらい

3者で学習と交流

第21回全国介護学習交流集会

10月9日、第21回全国介護学習交流集会が開催され、会場参加86人、オンライン参加83人、YouTubeでは226人が視聴しました。



シンポジウムで意見交換

8日に引き続き全労連会館で開催された第21回全国介護学習交流集会では、開会にあたり自治労連・青池則男中央執行委員が、社会保障が削減され続け、介護はそのトップランナーであると訴え、この学習会で介護報酬の動き・ねらいを学び、仲間に伝え、仲間を増やし介護制度を良くしたいことを呼びかけました。

記念講演は、厚労省社会保障審議会介護給付費分科会委員を務める、「認知症の人と家族の会」の代表理事・鎌田松代さんから「介護報酬改定の動きとねらい」と題した講演がありました。鎌田さんは冒頭、介護現場における人手不足、感染症対策、全産業との給与差とそれが引き起こす人手不足について、心配していること述べました。そして介護報酬改定の動きとしては、介護報酬の引き上げよりも加算でまかなおうとする姿勢は変わらず、狙いは給付の削減だと指摘しました。

また、「訪問介護・通所介護の複合型サービスの創設」による影響について、包括報酬となることで自由にサービス回数が選択できなくなった



発言する三崎さん

り、より高いスキルが求められる訪問介護が、通所介護職員も混在することにより維持が難しくなるのでは、と話しました。

さらに要介護1・2の人を現在の介護保険サービスから総合事業へ移行した場合、市町村財政の限度内での利用回数となる恐れがあることから、介護サービスを自由に選択できなくなり、利用者のみならず介護者への負担増も懸念されるため、絶対に阻止しようとしていました。

記念講演のあとはシンポジウムとディスカッションがあり、介護の事業者・利用者・

労働者の立場から3人のパネリストが意見を述べたり、会場からの質問に答えました。労働者パネリストとして登壇した香川県医労連の三崎浩一さんは、「介護は人と人がすることなので、毎回パターンが違う。ひとつひとつが財産で奥が深い」と魅力を語りつつ、「現場はギリギリの人員で、余裕の無さから利用者にもストレスを与えている。介護のやりがいを搾取されず、やりがいを形にした介護を実現したい。そのために署名に協力してほしい」と話していました。

最後に、中央社保協・林信悟事務局長が行動提起を行い、日本医労連・寺田雄中央執行委員が集会アピールを読み上げ、参加者一同の拍手で確認されました。

11月 介護を良くする アクション月間

■目的

- ・介護保険制度の改悪反対、利用者本位の制度実現
- ・介護労働者の処遇改善、人材確保の必要性世論化
- ・未組織介護労働者の労働組合加入促進
- ・介護署名集約（目標1人5筆）

■取り組み期間

2023年11月1日～30日
(宣伝強化週間11月6日～12日)

■取り組みの具体化

- ①宣伝行動（駅頭・街頭・全国一斉アピール宣伝）
- ②介護分野での組織化
- ③事業所訪問・懇談、介護集会・ミニ学習会開催
- ④地方議員などへの要請・懇談
- ⑤介護電話相談
- ⑥中央段階での行動

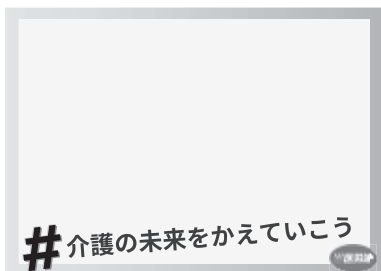
■行動計画の報告

取り組み計画を介護アクション月間集約用紙に記入のうえ、10月31日までに報告して下さい。

■その他

取り組みについて、ニュースや記事・写真があれば、報告として医労連本部までお送り下さい。

■詳細 日本医労連第070号



★宣伝グッズ★

■署名「介護保険制度の改善、介護従事者の処遇改善を求める請願署名」

■宣伝用プラカード（見本上）

10種類A3サイズでグーグルドライブ
<https://onl.tw/WRLhuTm>
よりダウンロードしてご活用下さい



全国各地で

23秋・いのちまもるキャラバン行動

「看護師・介護職員増やして」訴える

23秋いのちまもるキャラバン行動が、全国各地で旺盛に取り組まれています。いただいた報告から一部を紹介いたします。

●京都

京都医労連は、10月21日、大宮九条の、弘法市（弘法さん）と呼ばれる

縁日で、外国人や観光客が賑わうなか署名宣伝ア

ピール行動を行いました。他団体とも共同し約

10人でティッシュ500枚を配布しながらの宣伝

は好反応でした。「ウチの娘も看護師なのよ」「私

も看護師です。現場は本当に大変！」と対話しながら署名にご協力くださいました。また、マイク

デビューの組合員も青空の下、現場の実態を強く訴えました。

●神奈川

神奈川県医労連は、9月16日に3年連続、横浜中華街門前のキャラバンスタート行動に取り組みました。行動には7組織から36人が大結集しました。

コロナ禍になって4年、何も変わらない現場の人手不足を職場や地域に知らせるため、世論づくりを巻き起こそうと、署名宣伝アピール行動に

取り組んでいます。

署名の集約目標を、1人10筆、7万筆以上と設定し、12月まで毎月取り組みます。

●山形

山形県医労連

は、9月16日に山形市・鶴岡市・酒田市で「20

23年・秋のナースウェーブ行動」として署名宣

伝アピール行動を実施しました。各地の行動には、

10単組から27人が結集し、介護従事者の大幅増員と処遇改善を訴えまし

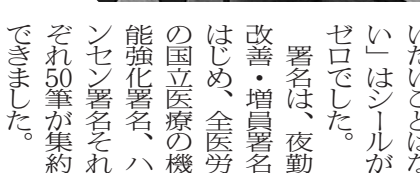
た。

●石川

全医労のある支部では、全国一斉「不払い労働一掃・退勤時間調査」集中月間に結集し、「退勤時間調査」に取り組み

ました。この病院は伝統的にアウトホームな雰囲気です。署名や調査の取り組みには、ドクターも看護部長も快く協力してくれました。シール投票を実施し、「いま病院に言いたいこと」をテーマに、いくつかの回答にシールを貼っていただきました。結果は、圧倒的に「人手不足にシールが集中し、続いて「賃金・ボーナス・各種手当」「年休が取れない」などにシールが集中しました。また「言

いたいことではない」はシールがゼロでした。署名は、夜勤改善・増員署名をはじめ、全医労の国立医療の機能強化署名、ハルセン署名をそれぞれ50筆が集約できました。



女性がつながり、声あげ ― ジェンダー平等社会の実現を

第68回はたらく女性の中央集会 IN 長野



はたらく女性の中央集会は、10月7日～8日で、長野市内「ホテル犀北館」をメイン会場にオンライン併用で開催され、2日間で延べ960人が参加しました。日本医労連から延べ112人（長野50人）が結集し女性の運動をすすめようと交流しました。

集会は、「ミサイルよりケアを、増税より賃上げを！いのち・暮らし・平和を守る憲法生かそう」のテーマで、一人ひとりが大切にされるジェンダー平等社会の実現を訴えました。学び、交流し、たてか

れ以上の格差と貧困、差別は「かえり」を訴えました。また「はたらく女性は過去最高の人数になっている。女性たちがつながり声を上げれば、ジェンダー平等社会の実現は可能だ。声を上げよう」と呼びかけました。

最後に、来年の開催地岩手から、「来年は岩手におでっくんせよ」と呼びかけられ散会しました。

女性たちがつながり、声上げよう

開会にあたり、舟橋初恵実行委員長（全労連女性部長）は、「岸田政権は国民に負担増を押し付けるばかり、皆さんと怒りをぶつけない」「こ

権力と対峙する公共財としてのメディアの役割

民主主義をな

小畑雅子氏（全労連議長）は、過去に韓国の大統領が取材のなかで、「日本は自力で民主主義を勝ち取ったことがない」と語っていたことに触れ、「韓国では民衆の運動によって政権交代がたびたび起こり、活発な民主主義を花咲かせている。台湾もそう」と話しました。「緊張感のない政治はよどみ、停滞する。日本はG7の中でも人権感覚が遅れに遅れている。ひとえに政治に変化が起きないことに起因している」と指摘。これをつけ、小畑氏は、「私たちの運動が問われている」と語りました。

権力の監視役としてのメディア報道の偏りについて問われた青木氏は、「自分は『反骨のジャーナリスト』と紹介されるが、本来ジャーナリストは反骨であるべき。タブーとされる報道ができていないことが報道への不信につながっている」と話しました。一方でメディアは社会の公共財であるとし、「時の権力に警告を発し、きちんと批判する人を、公共財として社会が作っていく必要がある」と述べた。

記念対談

私たちにできること
平和憲法と民主主義、
ジェンダー平等

小畑 雅子氏
(全労連議長)青木 理氏
(フリー
ジャーナリスト)

青木理氏

「おかしい」の声で健全化を最後に青木氏は、「時の政治権力に対し『おかしい』と言えなければ国家や社会がかしくなっていく。声を上げる人が増えるほど社会は健全化する。一緒に『おかしい』の声をあげていきましょう」と参加者にエールを送りました。

第14回地域医療を守る運動 全国交流集会のおしらせ

地域医療を守り、充実させていくために情勢を学習し、地域に必要な医療・介護の保障を求める地域住民の運動交流を目的として、「第14回地域医療を守る運動全国交流集会」を下記のとおり開催します。

- 1、日 時 11月23日(木・祝) 13時～16時30分(予定)
- 2、場 所 東京ビッグサイト 6階会議室
- 3、参加費用 現地参加 1,000円(定員:先着150名)
※加盟組織(7全国組合、47都道府県医労連)からの参加1名分は、旅費を医労連が負担します。
オンライン参加は無料です。
- 4、参加申込 <https://onl.la/Pt1x49P>
右のQRからも
申し込みも可能です📄



- 5、内 容
13:00 開会あいさつ
13:15 記念講演
「地域医療構想は妥当だったのかーデータから見える問題点ー」
佐藤 英仁 氏(東北福祉大学総合福祉学部 准教授)
14:25 基調報告
14:50 特別報告
15:45 参加者からの報告
16:30 閉会あいさつ
詳細は、発第054・075号をご参照ください



第14回

地域医療を守る運動

全国交流集会

と き

2023年11月23日

13:00～16:30(開会予定)

と ころ

東京ビッグサイト 6F会議室

参加申し込み

<https://us06web.zoom.us/join/zoom/1234567890>

参加費

1,000円(オンラインは無料)

記念講演

佐藤 英仁氏

東北福祉大学総合福祉学部 准教授

地域医療構想は妥当だったのかーデータから見える問題点ー

基調報告

特別報告

参加者からの報告

閉会挨拶

17:00開会予定

主催

「第14回地域医療を守る運動全国交流集会」実行委員会

実行委員会

日本医療労働組合連合会・中央社会保険推進協議会・日本自治労労働組合連合会

事務局

日本医療労働組合連合会 TEL03-3875-5871 ホームページ<http://www.irouren.or.jp/> E-mail: n-ask@irouren.or.jp

【パズル解答】1811号の答えは「レモンティー」でした。正解者の中から抽選でクオカードを贈呈します。
【応募方法】①組合(病院)名、②職種、③氏名、④郵便番号、⑤住所を記入し、解答を11/16(木)までにご応募ください。「読者のページ」もご寄稿下さい。
【応募先】〒110-0013 台東区入谷1-9-5「日本医労連教育宣伝局」FAX: 03-3875-6270 E-mail: n-ask@irouren.or.jp

- ヨコのカギ
- 1 悪書……。国外……。
 - 4 泣く子と……には勝てぬ
 - 7 バターで炒めた小麦粉
 - 8 祝いの品は千歳あめ
 - 10 チョッキとも言います
 - 12 掛け……。回転……。
 - 13 物事の糸口。手がかかり
 - 15 鏡…。縁…。…座
 - 16 マイ……。ベビー……。
 - 17 ……下暗し
 - 19 仲間はずれ。……の外
 - 20 よくかむほど出る
 - 22 東北地方の里芋を野外で煮て食べる集まり
 - 25 中庭の別名は……庭
 - 26 凶作とも言います
 - 27 持ち歩き用の水容器



- 【問題】二重ワクの文字を、A～Fの順に並べてできる言葉は、なに？
- タテのカギ
- 1 秋の日は……落とし
 - 2 モアイ像がある……島
 - 3 エンマ様の御座所
 - 4 高知県の昔の呼び名
 - 5 ベートーベンの交響曲第5番
 - 6 ……30階建てのビル
 - 7 船や貨物の容積の単位
 - 8 上品でもの静かな様子
 - 9 食欲の秋の後に励むこと
 - 10 松岡昌宏主演のミタゾノの役は？
 - 11 子どもが……こねる
 - 12 果実と皮と種の間
 - 13 教えるとは……を語る
 - 14 勇ましくて強い人
 - 15 こしかけ。チェア

他にはない大きな保障 セット共済

「医労連共済だよ」セッ共済(生命共済)の後遺障害に対する保障はとも大きく給付金を受けた加入者から喜ばれています。他の共済や生命保険に入っているから同じように給付がでると思っ

ていたら大間違いです。一度保障内容を確認してみてください。後遺障害の給付事由には大きくわけて「病

気・ケガ」によるもの、「不慮の事故」によるもの、「交通事故」によるものがあります。他の共済や生命保険では、そもそも後遺障害の保障がないものや、「不慮の事故」「交通事故」しか保障しない

医労連共済だよ

「まなばNight」日本医労連・憲法平和対策委員会が8月から行なっているオンライン学習会の企画名です。東京法律事務所

の弁護士に協力していただき、毎月末の木曜日、18時30分から30分間の短い時間で憲法や平和、人権について学習を行ないます。先日2回目

が終わり、1月の終了まで残り4回です。月1回30分なので、「ちょっと参加してみようかな」と、平和について「学

び」始めるきっかけになれば、と短時間にしました。

日本の大軍拡が進む

「まなばNight」で学ばないと

間て43兆円にすることが明記されています。その財源確保のために「防衛財源確保法」をつくり、新型コロナウイルスの最新線

で奮闘してきた国立病院や全JCHO病院の積立金や、震災復興のための税金まで防衛費に使うことを決めてしまいました。

暮らしに税金を使え

防衛費2倍化には、5兆円規模の財源を捻出する必要があります。生活関連予算の削減や、所得税や消費税の大幅増税で財源を確保する危険性があります。賃金も上がらないなか、物価高騰で国民は苦しんでいます。5兆円があつたら。大学授業料の無償化、児童手当の拡充、学校給食無償化の3つ合わせても3兆円台で収まる試算が出ています。消費税は、10%を8%に戻せます。公的保険医療の自己負担をゼロにできます。大軍拡ではなく、物価高に苦しむ国民の暮らしを守るために税金は使われるべきです。

戦争をしない努力を

いま、全国の米軍・自衛隊基地が大増強されています。最大の軍事拠点が、九州から沖縄・南西諸島です。奄美大島、宮古島、石垣島に次々と自衛隊ミサイル部隊が配備され、23年度には沖縄本島の勝連に地対艦ミサイ

大軍拡NOの声を

わたしたち、日本医労連の掲げる、「ふたたび白衣を戦争の血でがさない」というスローガンは、第二次世界大戦の経験から、二度と戦争を起こさせてはならないという平和への誓いです。いま、進められている大軍拡・大増税を許さず、平和憲法が生かされた政治の実現のために、一緒に声をあげましょう。そのために、まずは、「まなばNight」で学ばないとー

山崎 世理

医療の眼